

2022年7月29日

各位

会社名 M I C S 化学株式会社
代表者名 代表取締役社長 大塚茂樹
(コード番号 7899)
問合せ先 取締役管理部長 原川剛一郎
(TEL 0561-39-1211)

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2021年12月28日に、スタンダード市場の上場維持基準への適合に向けた計画を提出し、その内容について開示しております。2022年4月時点における計画の進捗状況等について、下記のとおり作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況の推移及び計画期間

当社の2022年4月末時点におけるスタンダード市場の上場維持基準への適合状況はその推移を含め、以下のとおりとなっており、流通株式時価総額については基準を充たしておりません。当社は2024年4月末(※1)までに上場維持基準を充たすために、引き続き各種取組を進めてまいります。

		株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
当社の適合状況及びその推移	2021年6月末時点	1,947人	22,336単位	8.1億円	38.0%
	2022年4月末時点	1,854人	22,240単位	6.8億円	38.0%
上場維持基準		400人	2,000単位	10億円	25%
当初の計画に記載した計画期間		—	—	2024年4月末(※1)	—

※1 2021年12月28日に開示した当初計画では計画期間を2024年12月末としておりましたが、中期経営計画の期間に合わせ、計画期間を2024年4月末に変更しております。

※2 当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出をおこなったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の実施状況及び評価並びに上場維持基準に適合していない項目ごとのこれまでの状況を踏まえた今後の課題と取組内容

当社は、持続的な成長を可能にしていくための指針として2021年6月に「中期経営計画(2022年4月期～2024年4月期)」を策定し、計画を着実に達成することでスタンダード市場上場維持基準の適合を目指してまいります。

(1) 課題

当社は、一定の株主数や流通株式数等を確保しながらも「流通株式時価総額」が基準に到達していないのは、「株価」の不足が主たる要因であると捉えております。従いまして、企業価値の向上により株価の向上と安定を図っていくことが最重要の課題であると認識しております。

(2) 取組内容

①新規事業（製品）の創出

- ・当社初の一般消費者向け新製品「Filmics Shu-Lock」「Filmics Shu-Lock ECO」はまったく新しい分野での重要な製品として位置付け、その優れた性能を武器に、育児介護・ペット関連企業や防災産業など、幅広い活用を販売分野として、鋭意営業活動を進めてまいります。2022年7月からは専売のWEB店舗を大手通販サイトに開設し、個人のお客様もお手軽にお求めできるようになりました。

②抜本的な事業構造改革の推進

- ・これまで主に、食品用途向けを主力分野としてきましたが、ここ数年は「Filmics FL」や「Filmics SBN」など特徴ある製品の売上割合が産業用途向けに着実に伸長しております。少子高齢化や人手不足を補う機械化・自動化が進んでいる表れと分析しておりますが、これら製品の更なる改良を推し進めることで競合メーカーに対する競争力を高め、同時に成長性と高収益が期待できる産業分野の比重を高めていきたいと考えております。
- ・不採算品目の統廃合や24時間の連続稼働の実施より生産効率を高め、ロス率を改善することで材料費の削減に繋がります。また物流業務の委託を一本化し、物流費の大幅な削減を進めることなど、売上原価の低減により収益力を向上させ、利益確保に取り組んでいきます。

③環境に配慮した取り組み

- ・2022年7月に、生産過程で生じるプラスチック端材を再び活用した自社オリジナルのエコ製品を新たに発表いたしました。2025年には年間約50tのプラスチック端材を廃棄することなく製品として活用していくなどの目標を掲げ、環境負荷低減への貢献を進めてまいります。

④働く環境の改善

- ・事業継続リスクを軽減するテレワークの導入や多地点会議などに欠かさないTV会議などのコミュニケーションツール、またはクラウドサービスの活用を軸に業務全体の質を上げていく「新たな価値観の実現」に邁進いたします。

上記の中期経営計画に同期する取り組みとして、コーポレートガバナンスの強化、積極的なIRの発信に取り組んでおります。

1. コーポレートガバナンスの強化

当社の独立社外取締役は現在3名で取締役総数の3割となっております。独立社外取締役は、自身の高度な組織運営経験や資本政策等の知見、弁護士経験等を活かして、取締役会や各取締役へ意見を述べるとともに、必要に応じて助言を行っています。取締役会等においては活発に議論しており、公正かつ透明性の高い体制が整備されています。

2. IRの強化

新製品「Filmics Shu-Lock」を7月の発売に先立ち、愛知県の東郷町に2022年2月に防災用、6月に保育施設用として、愛知県の大府市に2022年4月に保育・介護施設用として寄贈いたしました。寄贈の様子は地方紙に掲載され、自社HPにも「Filmics Shu-Lock」の専用ページを設け、当社の知名度向上に取り組んでいます。

これらの施策の実施により、新たな市場に対して付加価値の高い製品を投入していくこと、従来からの販売方法を見直して無駄のない効率的な形態に変革していくこと、材料費や物流費などのコスト削減策を実施することなどで収益構造の転換を図り、2024年4月期連結売上高26億33百万円、連結営業利益1億5百万円、売上高営業利益率4.0%を達成し、流通株式時価総額基準への適合を図ってまいります。

(連結業績計画)

(単位：百万円)

	2021年 4月期実績	2022年 4月期実績	2023年 4月期目標	2024年 4月期目標
売上高	2,377	2,605	2,615	2,633
営業利益	53	50	57	105
営業利益率	2.3%	2.0%	2.2%	4.0%
1株あたり営業利益 (2022年4月末基準)	10円26銭	9円69銭	10円84銭	19円98銭

以上